

# みえDOYU

2011年度 テーマ

激動を良き友に、自社の新たな形を創造しよう！

～あなたの会社の強みはなんですか？～

VOL 324 2011.11.1

広報責任者 水谷彰宏

〒510-0066

四日市市南浜田町 2-14

水谷ビル3F

TEL 059(351)3310

FAX 059(351)9362

<http://www.mie.doyu.jp/>

E-mail [mie-doyu@eos.ocn.ne.jp](mailto:mie-doyu@eos.ocn.ne.jp)

## 新たな市場を求め海外展開に注目が集まる中、 上海展示場開設事業が始動！

～組織名称は「日本の電気電子技術展示三重協議会」に決定～



### 上海展示場開設の背景

国内市場の縮小や円高による為替のリスクヘッジから大手企業をはじめ、多くの企業が海外展開の動きを強めています。こうした流れの中で、特に急速な経済発展を遂げている中国は、生産拠点としてだけでなく市場としても注目されており、日本の中小企業も新たな市場を求めて進出や販売機会を模索しています。

しかし関心の集まる中国市場において、日本の中小企業が製品や技術を売り込む際に相手先を見つけるために多くの労力を割いており、互いの信頼関係を築く場も少ないという状況から、これらの課題を解決し双方の経済交流を円滑に図る場が求められており、直接製品や技術を見て具体的な商談や情報交流が図れる常設展示場をつくるのが有効である

ことから開設する運びとなりました。中でも現代生活が電気に依る生活が主体となっており、中国側でもその技術や製品のニーズが高いことから電気・電子の分野に係る技術・製品の展示を行なうこととしました。

今回の展示場開設にあたっては、中国の電気・電子製品の安全・性能の試験認証を行なう「上海電器科学研究所(集団)有限公司」(SEARI)からの支援により同社の本社ビル内に展示場を設け、さらに製品の試験検査や販売面においても全面的に協力いただくこととなっています。

9月末より同友会事務局内に専任事務局を設置し、準備会を重ね展示場を運営する組織の名称を「日本の電気電子技術展示三重協議会」として発足し、10月13日には記者発表を行ない、出展企業の募集をはじめとした活動が本格的な活動がスタートしました。

上海展示場事業についての詳細概要は、同封のチラシを参照いただき、趣旨にご賛同いただける企業のご参加とお誘いをいただきますようお願い申し上げます。

### 中小企業の海外展開支援の意義

大企業は資本をはじめ生産拠点の海外移転の動きが進む一方で、国内産業の空洞化が危

(2面に続く)

惧されています。

このような中で、事業活動や雇用面で地域経済と深く関わりを持つ中小企業は、産業技術や生産手段の維持など国内の産業基盤と地域社会での雇用を守り、次代に続く社会基盤を確保していく大きな役割や責任を担っています。

しかし先細りする国内市場において新たな市場を求めることは、企業活動を進める上でも重要な課題であり、中小企業においても海外展開を図ることは必然性の高いものとなっています。

そのため国内に軸足を置いた上で、販路を海外に求める中小企業の活動を支援することは、国内で生産することで産業の空洞化をなくすだけでなく、地域の雇用と産業を守り、地域社会を守ることに繋がる特別な意義があります。

## 支部例会だより

.....

中勢支部 10月例会

### テーマ

『アナリストでも読めない情勢の中、

どう舵をとって進むのか』

パネリスト：橋本 正敏氏

橋本電子工業（株）代表取締役

鴻原 光氏

（株）まるよし 代表取締役

コーディネーター：榊 宏之氏

（株）サカキ L & E ワイズ 代表取締役

.....



（左：橋本氏・右：鴻原氏）

今月は、わが中勢支部の会員企業でエレクトロニクスなど最先端分野にてご活躍の橋本電子工業（株）の橋本社長と、飲食業というより観光業界に貢献していただいています（株）まるよしの鴻原社長にお出ましました。「想定外」「メルトダウン」の連続、ここ近年の業界・社業のご様子とそれ

ぞれのオーナーが目指していらっしゃる将来の企業像など伺いました。コーディネーターは（株）サカキ L & E ワイズの榊社長にお願いしました。

橋本電子工業（株）は、エレクトロニクスの技術開発力が売りの技術屋集団。今年3月の東日本大震災の影響で電子部品が入らなくなり、困ったこと。挑戦している“隙間”を狙ったニッチの部分の報告、米国を1つの市場として狙っている挑戦などなど。3年後には自社開発部隊の30名が独立採算でもやっていけるようになるのが夢だとか。

（株）まるよしの鴻原社長はご当人が25歳のとき、先代社長（57歳）が急に逝去されて2代目として跡を継がれたそうです。

一般のお客様商売なので、「食の安心と安全」「環境・衛生」など特に配慮を欠かさないように気配りしていらっしゃいます。

私たちの感覚ではまるよし様は食堂・レストランだという認識が一般的だったのですが、和田金・牛銀とは客筋で多少異なるとはいえ、やはり松阪牛のブランドを背負った観光業の一翼を担っているのだそうです。

最近の世界中の不況（リーマンショックを含み）から旅行業界の売上不振が続いているそうです。お土産用として「牛肉のしぐれ煮」に挑戦した結果、毎月の赤字となりこれが2年くらい続いたそうです。この業界では販売チャンネルの見極めが大切だということを勉強されたそうです。

最後にコ・ディネーターから「売り方の戦略：市場は有限、打つ手は無限！」とまとめをいただき、大変参考になりました。

鈴木建材（有） 鈴木正之



南勢支部10月例会

テーマ

## 『東日本大震災が及ぼした影響』

～ 受けたダメージと新たな挑戦～

パネリスト：天白拓治氏

大王運輸（株） 代表取締役

吉川勝也氏

（株）サン浦島 代表取締役

橋本和久氏

ナゴヤシンコー（株） 代表取締役

ファシリテーター：森本 友氏

（株）コスモスコーポレーション 取締役

日本中を巻き込んだ先の震災から7ヶ月たちました。当地区も津波被害をこうむった方も多数いらっしゃいます。まだ復興の渦中ではありますが、「震災のそのとき、その後、これからは？」という観点で、過去、現在、未来を考える機会を持つべきだということ、また、中勢支部の食事つきパネルディスカッション例会（合同例会）に触発され、いいところは何でも取り入れるべく、この会議は企画されました。

パネリストとしては、物流、食品部門を代表して、天白拓治氏、製造部門を代表して、橋本（4面に続く）

### 会員企業訪問

#### ～ 21代目社長は創業者！？～

今月は、およそ420年前に創業された南勢支部（有）二軒茶屋餅角屋本店へ行ってきました。当時の伊勢参宮には、伊勢湾を舟で横切る舟参宮のコースがあり、角屋はこの船着き場に生まれた茶店で、茶菓子にきな粉餅を売っていました。向かいにもう一軒、湊屋という茶店があり二軒の茶店から二軒茶屋という地名が付きました。そして自然と角屋のきな粉餅は、二軒茶屋餅と呼ばれるようになりまし。社長の鈴木成宗氏は創業者から数え、21代目となります。

現在、地元の方々に手土産として買っていただくことが多く、地元根付いたこの420年という暖簾は、後発のものに一生超えることができないものとなっています。経営環境がたちまち激変してしまうような今の時代であっても、すでに安定した経営環境となっている角屋は、今の規模、今の形を継続していけば、十分に次世代へ伝統を継承することが可能であると鈴木氏は考えています。

しかし、鈴木氏は、自らの人生を角屋の伝統を守り、事業を継承させていくだけでは終わりたくない、自らが持つ可能性に挑戦したいと考え、自らの手で新しい事業を展開したいという夢を持ちます。そこで目を付けたのが、酒税法の規制緩和により可能となったビール事業です。多くの酒造メーカーや第三セクターが参入し、一大ブームを迎えた地ビールは、当時作れば売れるという状態だったそうです。鈴木氏は、すぐにこの一時的なブーム

は去り、品質が求められることになると予想し、参入時から品質世界一を目指し研究を重ねていきます。

一見あいまいである品質世界一という基準も、日本より先行しているアメリカの大会で優勝することが世界一の品質であると基準を明確化し、最短ルートを通るために自ら勉強し、世界大会の審査員資格を取得します。そしてその成果は、Japan Beer Cupで金賞を受賞、そして日本企業で初めてとなるA I B A金賞を受賞することに現れました。鈴木氏の挑戦は、『伊勢から世界へ』世界のビールファンを唸らせる』の合言葉とともに、国内に留まらず、世界へファンを広げています。



（神都麦酒）

みそ・醤油という醸造業を営んでいたとはいえ、全くの素人から始めたビール事業は、今や二軒茶屋餅角屋本店の柱となっています。鈴木氏は、

ビールに関する書籍に囲まれる中、「どんな物事であっても、皆最初は素人です。専門書を5冊読み込めば十分な知識を得る事ができます。私は多くの地ビールメーカーを見てきましたが、ビールを作る基本すら学んでいないところもある。」と言います。21代目でありながらも、自らの手で新規事業を創り出し、学び挑戦し続けるという姿勢が成功への鍵となっているのだと感じました。

（事務局 金澤）

和久氏、観光宿泊業部門を代表して、吉川勝也氏の南勢地区各主要産業のリーダーにお願いしました。そして、ファシリテーターの森本友氏に猛獣使いよろしく、たくさん噴出する意見をさばいていただきました。

最初の一時間は、「受けたダメージ」、「変わったこと」、「学んだこと」の3テーマについてディスカッションを行いました。

その後のバズセッションも食事を交えながら、普段より気楽な雰囲気が進められたように思います。また、この大きな災害を目の当たりにし、来るべき東南海地震の発生にも備え、多面的な準備が必要であると考えさせられる例会でもありました。

**伊勢日軽アルミ建材(株) 藤村喜成**



(左：天白氏 中：橋本氏 右：吉川氏)

## 新会員のご紹介 (敬称略)

(23.9.22~23.10.20)

ほうもん まこと  
宝門 誠

志摩環境事業協業組合  
志摩市阿児町鶴方9番地44  
統括部長  
0599(43)5911  
業種 し尿収集運搬・浄化槽の清掃・  
浄化槽維持管理業務、管清業務  
南勢支部 紹介者：西尾 新

## 企業名・住所変更(敬称略)

かわすぎ よしのり

川杉芳則 (株)宮崎

桑名市五反田1928-2  
取締役社長  
0594(33)1115  
桑名支部

(旧登録社名:(株)宮崎工務店)

## 〈同友コラム〉

桑名工業(株) 杉山 保

経営指針確立セミナーは、私にとって年末を迎える際の年中行事のようになってきました。

私どもの会社は会計年度が一月から十二月でありますし、ちょうどこの時期に次年度に向けてどのような方針で経営していくのかを自分の中で検討し形にしていくには最高のセミナーだと思っています。

毎年あらためて経営理念を読み返し、決算書と向き合いながら経営指標を自分の手で電卓をたたいて計算することでその指標の意味や出てきた結果の検討が出来ます。自分で計算することに大きな意味があると思います。またその結果から、様々な状況の判断によってビジョンと戦略を策定しそれに基づき次年度の経営計画を作成していくのは、いつもながら大いに悩みます。しかし、石川先生の作られた素晴らしい教科書と的確な講義のおかげで何とか毎年形にすることが出来ます。

同友会のセミナーという形を借りて、同じ課題に向かう仲間とともに充実した時間の中で経営者として最も重要と言える仕事ができる、そんな経営指針確立セミナーを会員の皆様にも受講を強く薦めるものであります。経営理念に基づく計画の浸透にはまだまだですが、継続することで少しずつではありますが前へ進むことができると信じて今年も頑張ります。



## 第19回経営研究集会

# テーマ 『必要なのは行動力』

日時 平成23年12月5日(月)

13:30~20:00

会場 三重大学 三翠ホール 他

記念講演テーマ

「課題解決先進国 日本の可能性」

講師 小宮山 宏氏

(株)三菱総合研究所 理事長

東京大学 総長顧問

分科会

第一分科会 「固定観念からの脱却」

報告者:(株)アベックス 代表取締役 安部 宏氏

第二分科会 「社員教育で顧客から選ばれる会社へ」

報告者:(株)佐野鉄工 代表取締役 佐野明郎氏

第三分科会 「温泉事業をコアとした地域展開」

報告者:(株)猪の倉 専務取締役 岡田泰典氏

第四分科会 「行動すれば人生が変わる」

報告者:BARTOLO JAPAN(株) 代表取締役 山田栄作氏

参加費 分科会・記念講演は無料

懇親会参加費 4,000円

分科会・記念講演の詳細については同封のチラシをご覧ください、下記URLからご覧ください。

<http://www/mie/doyu/jp/19thkenkyu.html>

## 第7回理事会まとめ

?????????

中日本ブロック事務局長会議の報告(略)  
中同協広報情報化全国交流会の報告(略)  
中同協企業連携推進連絡会の報告(略)  
経営者の共育ち委員会研修の報告(略)

????????????

服部代表理事より報告されました。

・障がい者総合相談支援センター「そういん」からの『働く精神障害者からのメッセージ発信事業 近畿・東海ブロックセミナー』後援依頼を承認しました。

・次年度の活動や三重同友会の中期ビジョンを考えるにあたって、現在の情勢認識について意見交換を行ないました。主な意見は以下の通りです。

円高や企業の海外進出の流れから、国内の設備投資は停滞している。自動車部品メーカーなどは海外展開の動きを強めており、中小企業であっても海外を視野に入れて検討していく必要が高まっている。また食品などでも放射能問題の影響は残っており、書類手続きの手間はかかるが、十分にチャンスはある。

震災の影響から特需に沸いている部分も出ているが、一方で従来の構造に歪みが出ている部分もあり、構造の是正が必要となっているところもある。また行政による予算の多くは復興支援に振り替えられ、この地域の公共事業はストップしている。徐々に出てくるが時間がかかる。デフレ傾向が続く中で、流通コストの削減により利益確保を図る動きが強くなっている。物流業界においても従来までの仕組みが変わり、新しい形や動きが生まれ始めている。

企業づくりにおいて、新たな仕事づくりや取り組みが求められる中で、その前提となる情勢認識の重要性を確認しました。

????????????

梅本実行委員長より以下の内容の報告提案

があり、承認されました。

- ・グループ討論の充実を図るため、事前にグループ長研修を開催します。
- ・宣伝動員については、従来のチラシ配布及びDMと合わせて「三重ふるさと新聞」への記事広告・三重テレビでのインフォメーション案内・フェイスブックでの発信などに取り組むこととしました。
- ・現在スケジュール調整中の鈴木知事が来賓参加される場合には、来場時間に応じて挨拶いただく場所をフレキシブルに対応することとしました。

?????????

1) 総務委員会

・9月度月次決算及び第2四半期特別会計報告(略)

・慶弔規定見直しについて提案を承認し、見舞金は廃止することとしました。

・第30回定時総会の開催にあたり北勢支部を主管とすることを確認しました。また総会での活動計画提案にあたり、各委員会で方針と活動計画を立てていただくことを申し合わせ、開催時期が重複しないように調整する事としました。

2) ITNet研究委員会(略)

3) 企業リスク研究委員会(略)

4) 共同求人研究会

・四日市大学との連携活動の一環として、来年四日市大学で開催される経営学特殊講義における講師依頼について、講師選出については理事会として協力していくことを確認しました。

5) 経営労務委員会(略)

?????????????????????

????????????????????????

??????

・次世代育成応援ネットワークからの『子ども虐待防止啓発月間事業』について、三重同友会としても協力していくことを確認しました。

